

令和6年度 学校教育自己診断・結果の分析と考察

【回答方法・回収率について】

昨年度同様、グーグルフォームのみの回答とした。令和4年度はグーグルフォームと希望者のみ紙との併用で実施して 86.1%であった。令和5年度はグーグルフォームのみで実施して 75.9%へ低下した。

今年度は 79.2%と向上しており、ICT導入に対する保護者のご理解ご協力が進んでいることが伺われる。

府内の支援学校でICT化に伴い回収率が落ち込んでいるという学校あるなか、本校においては、「授業アンケート」「安否確認ツール訓練」「PTA総会の回答」「PTA行事・係の出欠」など様々な場面で活用してきたことで、保護者へ浸透してきたものと思われる。

【保護者分析】

○設問1 「学校へいくこと」について

80%以上の保護者が肯定しているが、すべての学部で否定的意見が上がっている。支援学校においても生活リズムの乱れや心理的要因等、様々な理由から行きしぶりの児童生徒がおり、このような結果になったと考えられる。学校に来て学習したり、友だちと関わったりすることが楽しいと思える環境づくりを考えたい。

○設問13 学校施設、設備について

令和4年度で大規模改修は終了し、修繕はされてはいるが、開校から46年が経ち、設備等の古さも大きな要因であると考えられる。昨年度から肯定的な評価が全学部で6.2%、小学部に限ると10%も低下している。これは教職員の項目でも同様の傾向にあり小学部教員が10%の低下が見られたことから、この2年における小学部児童数の急激な増加に伴う教室環境等に対する評価ではないかと考えられる。

○全体的に「E：わからない・判断できない」との回答が一定数ある。設問項目に関する取り組みは行っているものの、保護者へ伝わっていないことがまだあるのではと考えられる。連絡帳や期末懇談、定期的なお便りや学校ブログを通じて、さらに本校の取り組みを知っていただけるよう、情報提供を継続して行っていく。

【教職員分析】

○設問7 相談体制について

79.7%と若干下回ったものの、昨年度の 73.9%からは改善されている。校内における相談窓口を明確にし、組織的に対応している。小・中学部に比べて高等部が高くなっているのは、進路に関して、担任以外とも関わる機会が多いということがこの結果につながっていると考えられる。

○設問 10 ICTに関する項目について

小学部において12%も上昇した。授業場面における利用頻度が増えたことや、会議のペーパーレス化が進んだことも要因かと思われる。

○設問 14 学校施設、設備について

今年度 64.7%、昨年度 66.4%から若干下がっている。ただし学部ごとに傾向が違っており、全体的に校舎の老朽化が進んでいる中で、高等部は昨年度より肯定的意見が9%上昇している。高等部特別教室の設備改修により増えたものと考えられる。一方で、小・中学部においては児童生徒数の増加により、教室数や設備についての不自由さがあり、このような結果（小学部 10%減、中学部 6%減）につながったと考えられる。

○設問 16 学校運営について 今年度 60.9%、昨年度 64.9%

○設問 17 労働環境について 今年度 51.2%、昨年度 59.7%

学校運営や労働環境の改善について今後も検討を重ねていく。